

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年8月19日（金）10時30分～11時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、松田室長補佐、高木係長、横山係長、塩唐松係員

新井安全審査官（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

黒川原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当6名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 濃縮廃液タンク（D・H2 エリア）の対応状況について
    - ✓ リスクマップにおいて2022年度の目標とされている「タンク内未処理水の処理手法決定」について、Dエリアの濃縮廃液上澄み水は希釈によるALPS処理の見通しを得ており、希釈倍率・移送方法等を検討している。H2エリアの炭酸塩スラリーについては、模擬スラリーによるコールド試験を計画している。
  - HIC 保管容量ひっ迫状況と対応について
    - ✓ HICの保管容量について、ALPS処理による発生の実績とHIC移替えを考慮して予測したところ、2023年4月に現在の保管容量に達するため、第三施設におけるボックスカルバートの増設が必要である。また増設する場合でも、スラリー安定化処理設備の運用開始予定よりも前に保管容量に達するため、対応が必要である。対応としては、HIC発生量低減と保管容量増加の対策を検討している。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のとおりコメントした。
  - 濃縮廃液タンク（D・H2 エリア）の対応状況について
    - ✓ 希釈倍率の検討結果が出る段階で説明すること
    - ✓ 処理手法の決定の際には、処理スケジュールも併せて説明すること
  - HIC 保管容量ひっ迫状況と対応について
    - ✓ 第三施設におけるボックスカルバート増設に係る実施計画変更認可申請は、耐震クラス分類に係る線量評価も含めて審査に必要な内容を整えて行うこと。当該線量評価については、7月25日の特定原子力施設監視・評価検討会における議論を踏まえ、保守的かつ合理的な評価であれば、詳細評価である必要はない。
    - ✓ 保管容量の予測について、ALPS処理水の海洋放出のための2次処理による発生量への影響を説明すること

## 6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール（2022年7月28日現在）
- 水処理設備の運転状況、運転計画（2022年8月5日～2022年9月1日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2022年8月5日～2022年8月18日）
- 濃縮廃液タンク（D・H2エリア）の対応状況について
- HIC 保管容量ひっ迫状況と対応について

以上